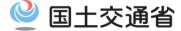
参考資料7

# 施策推進に係る取組事例

- 参考資料7-1「北海道価値創造パートナーシップ会議」の開催について
- 参考資料7-2 食文化「丸ごと」輸出 (経済産業省北海道経済産業局)
- 参考資料7-3 アドベンチャートラベルを通じた欧米豪市場からの外国人観光客 拡大の取組 (国土交通省北海道運輸局)
- 参考資料7-4「北海道型地域構造の保持・形成に向けたモデル的な圏域に おける検討調査」の概要 (国土交通省北海道局・北海道開発局)
- 参考資料7-5「北海道産品の輸出促進に向けた検討業務」の概要(国土交通省 北海道局・北海道開発局)

### 「北海道価値創造パートナーシップ会議」の開催について



- 〇 平成28年3月に閣議決定された第8期北海道総合開発計画のビジョンである「世界水準の価値創造空間」の形成を目指すため、地域づくり活動者、有識者、関係機関等の交流促進を目的として、北海道価値創造パートナーシップ会議を開催しました。
- 第3回目となる本年は、「世界の北海道」をテーマに、我が国を支える北海道の「食」及び「観光」が、国内のみならず世界の人々に評価され、選ばれるものとなるために必要なことなどについて意見交換等を行いました。

[日時] 平成31年1月25日(金) 13:00~17:30

〔場所〕 ホテルノースシティ(札幌市)

〔主催〕 北海道価値創造パートナーシップ幹事会

〔参加人数〕 約230人

#### 《幹事会構成員》

(株)北洋銀行、北海道経済連合会、(一社)北海道商工会議所連合会、(公財)はまなす財団、

(一財)北海道開発協会、北海道、札幌市、北海道総合通信局、北海道経済産業局、北海道運輸局 【事務局】北海道局、北海道開発局

#### プログラム

13:00~13:15 主催挨拶・総括ファシリテーター挨拶

13:15~14:55 基調講演

「世界に通用する「食」のブランド構築に向けて」

「世界に選ばれる観光地の形成に向けて」

14:55~15:15 「食」及び「観光」に関する取組事例の紹介

北海道経済産業局、北海道運輸局、

北海道開発局

15:25~17:30 トークセッション

「世界の食市場の獲得に向けて(輸出・インバウンド対

応強化)⊥

「世界水準の観光地の形成に向けて」

#### 基調講演



内田 勝規 氏 ((株)オフィス内田 代表取締役会長)

#### 【概要】

- ・ 売れるモノづくりのコツは国内外共通。ターゲットを明確にした上で、良い商品、宣伝力、販売力を持つことが必要。
- ・「今だけ、ここだけ、あなただけ」という売り方も大事。商品の入手に関する不便さは、希少価値と背中合わせであり、付加価値にもなり得る。
- ・顧客ニーズの変化スピードが早くなっており、百貨店勤務時代(※約10年前)の1年が、現在の1ヶ月ないしは1週間に相当する感覚。
- ・ 北海道の食等の素材に対する評価は、他地域と比較し圧倒的に優位。しかし、既得権益に頼った手法では、これからの変化に対応していくことは困難。

#### 主催挨拶・総括ファシリテーター挨拶



幹事会代表 和泉 晶裕 氏 北海道局長



幹事会代表 阿部 啓二 氏 北海道副知事



総括ファシリテーター 田村 亨 氏 北海商科大学教授



靖 氏

観光コミュニティ学部 准教授)

(跡見学園女子大学

【概要】

- ・ 北海道に存在する本物の食と観光をベースに「北海道」を世界ブランドに発展させていくことが必要。北海道の食・観光に携わる多様な関係者の連携、ビジネスの融合が求められる。
- ・ 経験豊かな旅行客は、単なる物見やお仕着せのメニューでは満足しない。地域の暮らし ぶりや生活文化等、固有の価値をいかに発掘できるかがポイント。
- ・ 人口減少、地方消滅と言われる中、今私たちが頑張らなければ100年前の先人達が今に 伝えた文化を継承していくことはできない。
- ・ 何よりも地域観光を盛り上げようとする人の強い思いと情熱が関係者・地域を動かす。
- ・ 消費者は本物を求めている。北海道の観光コンテンツは本物であり、「今だけ、ここだけ、 あなただけ」を提供していくことが可能。

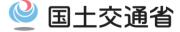
#### 「食」及び「観光」に関する取組事例の紹介

- ・ 食分野における重点取組について
- 北海道観光を変えるアドベンチャートラベルについて
- ・ みなとを通じた農水産品輸出及び観光振興の取組について : 国土交通省北海道開発局

: 経済産業省北海道経済産業局

: 国土交通省北海道運輸局

## 「北海道価値創造パートナーシップ会議」の開催について



### トークセッション

※ 我が国を支える北海道の「食」及び「観光」が、国内のみならず世界の人々に評価され、選ばれるものとなるために必要なことなどについてご議論いただきました。

#### ●意見交換会テーマと出演者

#### テーマ1:「世界の食市場の獲得に向けて(輸出・インバウンド対応強化)」

・ファシリテーター

林 美香子

(慶應義塾大学大学院SDM研究科 特任教授)



○石屋商事株式会社 商品部マーケティング室課長 池田 明 氏

外国人旅行者は体験したい気持ちが強く、オリジナルのクッキー等を作ることのできる白い恋人パークは好評を博している。今後はたりたコンテンツの充実を図るほか、電子決済の導入等、受入環境の整備を推進したい。

ONPO法人ワインクラスター北海道

世界的に見ると、ワインの生産

拠点は涼しい地域に移っており、

北海道のポテンシャルは大きい。

ワインは食と観光両方に通じて

有効な素材となり得る。

おり、インバウンド・輸出の両方に

代表理事 阿部 眞久 氏



〇一般社団法人 北海道国際流通機構 代表理事 鳥取 義之 氏

商品に付加価値を付け、高く 売ろシさするだけでは、北海道の 食のマーケットは広がらない。輸 出拡大のためには、ブランド化、 海外ニーズへの迅速な対応で イテムの多様化等)が鍵となる。



〇株式会社日本政策投資銀行 北海道支店

次長 兼 企画調査課長

岸本 稔 氏

供給側の目線だけで考えるのではなく、海外のマーケットにおける売れ筋のサイズや売り場の大きさ、流通ルートの違いなど、食品の特性を踏まえ、きめ細かな戦略を展開することが大事。



・ファシリテーター

矢ケ崎 紀子氏 (東洋大学 国際観光学部教授)



○北海道アドベンチャートラベル協議会 会長 荒井 一洋 氏

現時点の北海道観光は「行ってみたい国日本」の中の「北海道」として評価されている。歴史(日本)+自然(北海道)という構図。

北海道の観光資源を活かし、もっと多くの「観光ビジネスをやるんだ」という人が必要。



○ツーリズム・コンサルタント ポール ハガート 氏

海外の競合相手をしつかり分析 することが大事。海外から人を呼び 込むためには、スキーの後に居酒 屋で楽しめるといったホリデーの要 素を情報発信に含めることが重要 (日本では観光に関連するホリデー 情報の提供が不足している。)。



〇北海道観光振興機構 誘客推進 事業部

事業部長 木藤 勇人 氏

観光を盛り上げ、付加価値を高めていく重要な要素は人である。観光 に携わる者が北海道以外の地域を 知り、外からの目線で観光資源の 磨き上げを行っていく必要がある。



○(急用のため欠席) Follow Me Japan社 代表取締役社長 西村 理佐 氏

(西村氏が事前に作成していた論点メモを矢ケ崎ファシリテーターが代読) 外国人観光客の誘客には、インパクトが重要。コンセプトを明確にした上で、まず一つの要素を前面に出し、その後、他の要素に誘導していく手法が効果的ではないか。



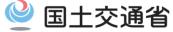
#### 【ファシリテーターまとめ】

北海道の食が世界に飛躍していくためには、素材を磨くとともに、輸出・インバウンド対応等に関する工夫をこらし、それらを連携させていくことが求められている。そして何よりも、それを行動に移すことが必要。



#### 【ファシリテーターまとめ】

北海道は「素材」「モノ」が一流。今後、観光に携わる様々な分野の者が目線を上げ、体験が感動に変わる北海道観光の実現(「世界水準」の「コト」)を目指してもらいたい。



### 「食」及び「観光」に関する取組事例の紹介

● 食分野における重点取組について(経済産業省北海道経済産業局)



北海道経済産業局では、道内「食」関連 産業の「稼ぐ力」を強化するため、北海道 の「食」の輸出促進等に関する取組を展開 している。

世界の食市場獲得のための手法として、 単純に食材を紹介するのではなく、調理法、 食べ方など食文化を丸ごと売り込む方法 が効果的であると考えている。

北海道経済産業局は、関係者の連携・ 協働を促進し、道内企業による世界の食 市場への挑戦を支援していく。

#### ● 北海道観光を変えるアドベンチャートラベルについて(国土交通 省北海道運輸局)



アドベンチャートラベル(AT)を楽しむ外 国人観光客の受け入れ促進等を図るため、 北海道アドベンチャートラベル協議会が設立された。

年に一回開催される世界のAdventure Travel World Summit (ATWS)には、約60カ国から約800名が参加。当該サミットは、ATに関する潜在的なニーズに対する訴求力が高く、過去のサミット開催地ではATの地域への経済効果が約3倍に高まったとも言われている。

2021年、北海道でのサミット開催を目指している。

#### → みなとを通じた農水産品輸出及び観光振興の取組について(国 土交通省北海道開発局)



道産農水産品の輸出促進を図るため、拠点港の整備を推進するとともに、輸出を妨げる様々な課題解決(小口貨物の集約化、海外ニーズのマッチング等)に取り組む北海道国際流通機構と連携し、事業者を支援している(その一環として、胆振東部地震の被災3町の特産品PRを台湾で実施。)。

観光関連では、クルーズ船の大型化に対応した岸壁整備を進めるとともに、地元の "おもてなし"との連携を促進している。

### 会場の様子



基調講演の様子



トークセッションの様子(食)



取組事例紹介の様子



トークセッションの様子(観光)

#### 参加者の意見・感想(要約

- ・ 意見交換等を聞き、食・観光両分野ともに、北海道の素材の良さについては自信を持った。今後必要なことは素材を活かすアイデアと工夫だと思う(必要な要素は「インパクト」「連携」「行動」)。
- ・ 「本物」「いまだけ、ここだけ、あなただけ」という視点が資源を見つけ、磨いていく際のキーワードになるのではないか。
- ・ 海外市場と向き合うとき、国内他地域だけではなく世界各地の相手とも競争しているのだという「気づき」があった。
- ・ 不便さと希少価値が背中合わせだというものの見方・考え方は参考になった。
- コアとなる観光資源に関する情報だけではなく、その地域の「日常」、「誇り」、「休日の楽しみ」などを 組み合わせて情報発信することが効果的だと思った。
- ・ ターゲットに対するマーケティング結果、ニーズへの対応等について、情報化社会の中で反応速度を 上げることが求められている。



- 海外調理師の「調理法を含む食文化を丸ごと提供したい」というニーズに対応し、北海道の代表的食文化である「ラーメン」を切り口に北米や中東でフェアを開催。ラーメンを含む道産食材の輸出が拡大。
- 「2020年ドバイ万博」開催を見据えて、ドバイからの調理師招へい・道内産業ツアー・商談を行うとともに、 ニーズに合った道産食材(米、水産品、麺等)を使ったメニューや道産商品(チーズタルト、おかき、日本酒等)を提 供するフェアをドバイで開催。新たに、チーズタルトや水産品の取引につながった。

### 地域中核企業 西山製麺(株)(札幌市)



● 生ラーメン等300種類以上の製品を製造。国内外ラーメン店主への開業 支援コンサルで顧客との関係を深化。欧米・アジア・中東へ商品を輸出。

●資本金:9000万円 売上高:31億円 従業員:206名



平成30年3月、ドバイでオープンしたレストラン「Oni」では、西山製麺の麺を使用したラーメンも提供されている。

### 【平成30年度の取組内容】

●中東ドバイから調理師を招へいし食産業ツアー・商談会を開催(平成30年7月)

具体的なニーズを持ったドバイの調理師を道内の生産現場に招へいし、食材の調理法や食べ方も含めた「食文化ごと」 価値を伝える産業ツアー・商談会を開催。

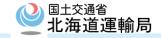
●中東ドバイで「北海道・日本『食』フェア」を開催(平成30年12月) ドバイの高級レストランで道産食材(米、水産品、麺等)を使ったメニューとともに、 道産商品(チーズタルト、おかき、日本酒等)を提供するフェアを開催。

現地の輸入業者、調理師、投資家、インフルエンサー等350名の来場があった。

●海外向けラーメン製造工場の供給体制強化

海外需要が増加する中、人手不足が課題であることから、将来的なロボット導入等の検討のため施策情報を調査。

# 北海道アドベンチャートラベル協議会(HATA)の設立



【目 的】アドベンチャートラベルを通じた 外国人観光客の受入・誘致等

【設 立】2017年6月



【構成員】自治体、団体、民間事業者、個人、大学、国の機関等 (2019年4月9日現在で86団体)

【会 長】荒井一洋氏 (NPO大雪山自然学校代表理事、 アジアエコツーリズムネットワーク理事)

【事務局】北海道運輸局

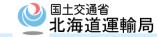
## 【事業】

- ①Adventure Travel Trade Association (ATTA)への加盟
- ②ATTAを通じた宣伝誘致事業、人材育成事業等の実施
- ③アドベンチャートラベルに関する海外からの問い合わせへの対応
- ④ホームページの運営
- ⑤道内関係者に対するアドベンチャートラベルへの理解促進と啓蒙活動
- ⑥北海道におけるアドベンチャートラベルへの課題解決に向けた取り組み
- ⑦その他、協議会の目的達成のために必要な事業





# アドベンチャートラベルガイドの人材育成





(世界最高水準の一流ガイド)

### ATガイド人材

(自然・文化について、英語を 用いて滞りなくガイドを行う ことができる者)

OAdventure EDU(ATTAの教育プログラム) (2017年9月27, 28日)

- ・ATTAの講師3名による、ビジネスマーケティ ングや商品開発等に関する講義(釧路市)
- 当該講義を横展開するためのセミナー を阿寒湖温泉、帯広市、斜里町、上川町 で開催



〇ガイド育成事業(2018年11月~2月)

- 有識者による研修内容検討
- 研修(ワークショップ)の実施

○阿寒、大雪におけるガイド育成事業(2018年2月22、25日)

- ○根釧地域におけるガイド育成事業(2018年10月29日)
- ・ストーリー性のあるトレッキングコースの設定
- •研修教材の作成
- ガイドの育成研修





アウトドア ガイド

日本人向け」外国人向け ガイド (通訳案内士等)

# ATガイド候補人材

ATガイド

(英語が堪能な学生等)

〇ガイド養成に係る実証事業(2018年8月9~12日)

- 英語が堪能な学生等が ATガイドを体験
- ・学生等向けのATガイド 説明会の開催



### 「北海道型地域構造の保持・形成に向けたモデル的な圏域における検討調査」の概要

国土交通省

(北海道局・北海道開発局)

	調査名	調査の概要	
地域構	北海道型地域構 造の保持・形成 に向けたモデル 的な圏域 討 調 (H29~H30)	北海道の生を を生るため を生るのは構造の 生るのは構造の 生るのは構造の を連進する のはでは を連進が のはでで のは のは のは のは のは のは のは のは のは のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	成果 H30年に30年(日本ので、19年(日本ので、19年(日本ので、19年(日本ので、19年)ので、19年(日本ので、19年)のでは、19年)ので、1
造			活用・普及  >モデル圏域の構成員の共通 >名寄周辺地域、十勝南地 策パッケージについて、 Pに掲載。 >施策パッケージを基に、
			関係機関が具体的な施策 を継続的に推進。 →本取組を広く全道各地域 るためのシンポジウムを 取組の全道展開を推進。

#### 調査の成果、活用・普及

- こモデル圏域とし \$周辺、十勝南、 付会等の取組を引
- D課題、目指す姿、 で取り組む事項な 地域の民間関係 フーキングチーム ዸし、より具体な
- -キングチームで 名寄周辺地域で 也域ではH30年12 アージを策定し、
- つ取組を全道各地 りのキックオフと ポジウムを開催。
- 通認識の醸成。
- 也域で策定した施 北海道開発局H
- 地域において、
- 域において展開す ·開催。今後、本 **収組の王退展用を推進。**

#### 圏域検討会・WTの開催

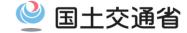


施策パッケージ



#### シンポジウム開催状況





(北海道局・北海道開発局)

	調査名	調査の概要	調査の成果、活用・普及		
食	北海道産品の輸出促進に向けた検討業務 (H30~R1)	で験を弱い、一般では、大きなのののでは、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなので、大きなが、大き、、大きなので、大きないで、大きなので、大きないでは、大きないでは、いきないでは、大きないでは、いきないではないでは、いきないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは	要となる基礎情報・課題・方針等を整理。 活用・普及	初めて海外展開に取り組む企業の募集 (実証実験説明会)  「通産品の「小口運載、輸出 」 「通産品の「小口運載、輸出 」 「日本の大田の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の	

国や自治体、JETRO、商工会等、輸出関係8団体が参加